

令和5年度 学校評価アンケート（分析）

千葉市立緑が丘中学校

本校では、前期（7月）と後期（12月）の年2回、生徒・保護者・教員対象に「学校評価アンケート」を実施しています。4段階（4：あてはまる、3：ややあてはまる、2：あまりあてはまらない、1：まったくあてはまらない）の評価としていますが、「1」の評価があまりないため、「4」と「2」の割合に注目して分析しました。また、前年度と今年度、前期と後期を比較して、肯定的な割合（「4」＋「3」）が4ポイント以上上昇した項目と下降した項目にも注目して分析しました。なお、本年度から学校経営方針に応じて研究主題を見直し、新たに追加した項目が1項目あるほか、質問内容に若干の変更があります。

《参考》本校研究主題

生徒の学習意欲を喚起し、「伝える」力の向上を目指す指導と実践
～振り返り活動や表現活動の工夫を通して～

1 生徒アンケートから

（1）前期との比較から

①「4」（あてはまる）と「2」（あまりあてはまらない）の回答率の比較から

- ・「あてはまる」（「4」）の回答率に注目すると、後期は「私は安心して安全に楽しく学校生活を送っている」（61.9%）、「私は部活動に自主的に取り組むとともに、部活動の友達とお互いを高め合いながら活動できている」（57.8%）、「私は学校生活が充実して満足している」（55.6%）、「私は清掃活動にきちんと取り組み、学習しやすい落ち着いた環境づくりを心がけている」（55.3%）、「私は学校行事や生徒会活動、係活動によく取り組んでいる」（54.6%）の順で高かった。
- ・前期に課題となっていた「私は振り返り活動や発表などの表現活動を通して、自分の考えをわかりやすく伝えることができています」の「4」の回答率は、前期と比較すると、22.9%から54.1%へ31.2ポイント上昇し、「私はキャリア教育（進路学習）を通して、生き方、職業、進学に関心をもち、将来について考えて学習や生活に取り組むように心がけている」の「4」の回答率も27.5%から49.8%へ22.3ポイント上昇している。
- ・一方で、「あまりあてはまらない」（「2」）の回答率に注目すると、後期の上位3項目は「私は振り返り活動や発表活動などの表現活動を通して、自分の考えをわかりやすく伝えることができています」（22.1%）、「私は学校だよりなどの学校からの手紙を持ち帰って、保護者にきちんと見せている」（17.0%）、「私はキャリア教育（進路学習）を通して、生き方、職業、進学に関心をもち、将来について考えて学習や生活に取り組むように心がけている」（12.6%）だった。

②肯定的な回答（「4」＋「3」）の割合から

- ・前期と比較して肯定的な割合（4＋3の割合）が4ポイント以上上昇した項目は、「私はキャリア教育（進路学習）を通して、生き方、職業、進学に関心をもち、将来について考えて学習や生活に取り組むように心がけている」（＋10ポイント）、「私は振り返り活動や発表活動などの表現活動を通して、自分の考えをわかりやすく伝えることができています」（＋6ポイント）、「私は家庭学習を行っている」（＋6ポイント）、「私は学校行事や生徒会活動、係活動によく取り組んでいる」（＋4ポイント）の4項目だった。
- ・一方で、前期と比較して肯定的な割合（「4」＋「3」）が4ポイント以上下降した項目はなかった。

- ・評価項目 14 項目中上昇した項目は 11 項目、下降した項目は 2 項目、変化のなかった項目は 1 項目だった。

(2) 昨年度の肯定的な回答(「4」+「3」)との比較から

- ・昨年度と比較して肯定的な割合(「4」+「3」)が 4 ポイント以上上昇した項目は、「私は授業がわかりやすく行われていると思う」(+8 ポイント)、「私はキャリア教育(進路学習)を通して、生き方、職業、進学に関心をもち、将来について考えて学習や生活に取り組むように心がけている」(+5 ポイント)の 2 項目だった。
- ・一方で、昨年度と比較して肯定的な割合(「4」+「3」)が 4 ポイント以上下降した項目はなかった。
- ・評価項目 13 項目中上昇した項目は 6 項目、下降した項目は 4 項目、変化のなかった項目は 3 項目だった。

「生徒アンケート」からは、昨年度と比較すると、授業がわかりやすいと感じている生徒が増加したのは大きな成果である。また、前期と比較すると、キャリア教育の充実に力を入れて取り組んだ結果、自分の将来について考え学習や生活に取り組むという自己評価が高まり、本校の研究主題を受けた取組を通して、授業や学校・学年行事等で自分の考えをわかりやすく伝える表現活動の自己評価も高まっている。また、家庭学習への取組の自己評価も大きく改善された。そして、何よりも安心して安全に楽しく学校生活を送り、部活動に自主的に互いを高め合いながら取り組み、学校生活が充実していると感じている生徒が過半数を超えていることがわかった。その一方で、表現活動については、二極化が見られ、「あまりできていない」と感じている生徒がまだ 2 割以上いることから、教育活動全体を通して、引き続き取り組む必要がある。

2 保護者アンケートから

(1) 前期との比較から

①「4」(あてはまる)と「2」(あまりあてはまらない)の回答率の比較から

- ・「あてはまる」(「4」)の回答率に注目すると、後期は「学校は学校だよりや学年だより、すぐーるやHP等で学校の様子や情報をわかりやすく発信していると思う」(50.4%)、「学校(学級)はお子様が安心して安全に学校生活を送れるよう努力できていると思う」(44.2%)、「お子様は家庭学習を行っている」(43.3%)、「校舎内外がきれいに清掃され、学習にふさわしい落ち着いた学習環境になっている」(39.6%)、「学校は部活動の充実に取り組んでいると思う」(39.0%)の順で高かった。
- ・前期に課題となっていた「お子様は自ら進んで学習に取り組んでいる」の「4」の回答率は、前期と比較すると、19.4%から 23.8%へ 4.4 ポイント上昇し、「お子様は自分の考えをわかりやすく伝えることができる」の「4」の回答率も 19.4%から 21.9%へ 2.5 ポイント上昇している。
- ・一方で、「あまりあてはまらない」(「2」)の回答率に注目すると、後期の上位 3 項目は「お子様は自分の考えをわかりやすく伝えることができる」(28.9%)、「お子様は自ら進んで学習に取り組んでいる」(24.6%)、「学校は部活動の充実に取り組んでいると思う」(16.1%)だった。

②肯定的な回答(「4」+「3」)の割合から

- ・前期と比較して肯定的な割合(4+3の割合)が 4 ポイント以上上昇した項目は、「校舎内外がきれいに清掃され、学習にふさわしい落ち着いた学習環境になっている」(+4 ポイント)の 1 項目だった。

- ・一方で、前期と比較して肯定的な割合（「4」＋「3」）が4ポイント以上下降した項目は、なかった。
- ・評価項目 14 項目中上昇した項目は4項目、下降した項目は6項目、変化のなかった項目は4項目だった。

（2）昨年度の肯定的な回答（「4」＋「3」）との比較から

- ・昨年度と比較して肯定的な割合（「4」＋「3」）が4ポイント以上上昇した項目はなかった。
- ・一方で、昨年度と比較して肯定的な割合（「4」＋「3」）が4ポイント以上下降した項目は、「学校は部活動の充実に取り組んでいると思う」（－8ポイント）、「学校（学級）は適切な進路指導（生き方、職業、進学）を行い、よりよく生きようとする生徒を育てようとしていると思う」（－6ポイント）、「学校（学級）はルールやマナーなどの生活の規律を適切に指導できていると思う」（－5ポイント）、「お子様は自ら進んで学習に取り組んでいる」（－4ポイント）、「お子様は家庭学習を行っている」（－4ポイント）、「学校（学級）は事故防止や病気の予防に努めていると思う」（－4ポイント）の6項目だった。
- ・評価項目 13 項目中で全ての項目が下降した。

「保護者アンケート」からは、昨年度と比較すると、学校評価は多くの項目で数値が下がっているものの、校舎内外に清掃が行き届き、生徒が安心して安全に楽しく学校生活が送れており、学校の情報がわかりやすく発信されていることは、昨年度に引き続き評価されている。しかしながら、本校が取り組んでいる「わかる授業」の推進、自ら進んで授業に取り組むこと、表現活動（相手にわかりやすく伝えること等）については、生徒と保護者の評価に差が見られることから、学校の取組を保護者にもっと広く知っていただく機会を設けていく必要がある。

3 職員アンケートから

（1）「4」（あてはまる）の割合が高い項目と低い項目

①「4」の割合が高い項目

- ・いじめは決して許されない行為であるという認識をもって、いじめの未然防止や早期発見、解決にあたっている。（21人）
- ・生徒が安心して安全に楽しく学校生活を送れるように努めている。（16人）
- ・生徒が清掃にきちんと取り組み、落ち着いた環境づくりになるように指導している。（14人）
- ・生徒は身だしなみ、挨拶、時間やルールを心がけ、規律を守った学校生活を送れるように努めている。（15人）
- ・生徒が学校行事や生徒会活動、係活動によく取り組むように努めている。（14人）
- ・教育相談の推進に努めるとともに、問題の早期解決や学校での居場所・学習環境づくりに努めている。（14人）

②「4」の割合が低い項目

- ・生徒は学校だよりなど、学校からの手紙を保護者にきちんと見せていると思う。（2人）
- ・生徒は振り返り活動や表現活動を通して、自分の考えを理由や根拠に基づいてわかりやすく伝えることができている。（3人）
- ・生徒は自他の心を大切にし、思いやりのある行動や言葉がけを心がけていると思う。（3人）
- ・あなた自身は、生徒の家庭学習の習慣化に努めている。（4人）
- ・生徒はあなたの授業をわかりやすいと感じていると思う。（5人）

(2) 前期の平均値との比較から

- ・前期と比較できる質問項目は全部で36項目あるが、16項目が上昇、12項目が変化なし、8項目が下降しており、半数近くの項目で前期を上回った。中でも3ポイント以上上昇した項目は、「生徒はキャリア教育（進路学習）を通して、生き方、職業、進学に関心をもち、将来につながるよう努力していると思う」（＋3ポイント）、「生徒はバランスよくきちんと食事をとることや病気の予防、安全、事故防止に心がけていると思う」（＋3ポイント）の2項目となっている。一方、前期を2ポイント以上下回った項目は、「生徒は部活動に自主的に取り組むとともに、部活動の友達とお互いを高め合いながら活動できるように努めている」（－2ポイント）、「あなたは『主体的・対話的で深い学び』を通して、『わかる授業』の推進と研究の柱となる『表現力』の向上に努めている」（－2ポイント）の2項目となっている。

(3) 昨年度の平均値との比較から

- ・昨年度と比較できる質問項目は全部で31項目あるが、19項目が上昇、8項目が変化なし、3項目が下降しており、多くの項目で昨年度を上回った。中でも3ポイント以上上昇した項目は、「生徒はバランスよくきちんと食事をとることや病気の予防、安全、事故防止に心がけていると思う」（＋4ポイント）、「生徒はバランスよくきちんと食事をとることや病気の予防、安全、事故防止に心がけるよう指導している」（＋3ポイント）、「生徒は自他の心を大切にし、思いやりのある行動や言葉かけを心がけるように努めている」（＋3ポイント）の3項目となっている。一方、昨年度を下回った項目は、「あなた自身は基礎・基本の着実な定着に向けて、授業をわかりやすく進めている」（－1ポイント）、「生徒は家庭学習を行っていると思う」（－1ポイント）、「生徒は身だしなみを整え、挨拶することや時間やルールを守ることなどを心がけ、規律を守った学校生活を送っていると思う」（－1ポイント）の3項目となっている。

「職員アンケート」からは、職員は昨年度と同様にいじめに対する意識が非常に高いことがわかる。昨年度と比較すると、教育相談の推進や問題の早期解決や学校での居場所づくりや学習環境づくりに努め、生徒が自他の心を大切にし、思いやりのある行動や言葉かけを心がけるよう努めている職員が多い。この取組の結果として、生徒が安心して安全に楽しく学校生活を送り、生徒の学校生活が充実して満足していると自己評価する結果につながっているものと思われる。また、授業をわかりやすく進めるように努めている職員も多い。前期と比較すると、キャリア教育の推進、病気の予防・事故防止の数値が高い。しかしながら、全体的に見ると、本校の研究主題の取組でもある振り返り活動や表現活動を通して自分の考えをわかりやすく伝えることや家庭学習の取組の評価が低いことから、今後も継続して取り組む必要がある。

これを受けて、令和6年度は以下のことに重視していく。

- 学習指導においては、研究主題を継続し、「わかる授業」の推進のために、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を高める指導方法や評価の在り方を工夫する。
- 「毎日マイ学習ノート」、テスト計画表、宿題の取組を通して、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。
- 「おみそあじ」（思いやり、身だしなみ、掃除、挨拶、授業を大切にすること・時間を守る）を生徒指導の基本とし、教育活動全体を通して全校体制で指導に当たる。
- キャリア教育においては、自分のよさに気づき、自分の生き方を考えられるよう「キャリア教育グランドデザイン」に基づき、各学年の重点目標を明確にして、教科横断的に指導にあたる。